

KiKiの広場

2021年 4月 1日
cafe NO.126
KiKi



真綿川沿いの桜も3月の終わりから一気に咲き出し始めました。桜の開花を今か今かと待ち焦がれ、満開の桜や桜吹雪にうっとりする・・・なぜ私たちは桜にこれほど心を奪われるのでしょうか？桜の見頃は一瞬です。ぱっと咲いてぱっと散る、そんな潔さとはかなさのようなものが、心惹かれる魅力なのかもしれません。

昨年は指定管理者の運営継続が決まったものの、コロナの影響で休館が続き、先行き不安な新年度の始まりでした。コロナとの戦いはこれからもずっと続きそうですが、1年間向き合った経験を活かしつつ、誰もが少しでも安心して過ごせるよう、あらゆる可能性を考えそれに備えていきたいと思えます。

2021年度も、どうぞよろしくお願ひいたします。

🍰「今月のケーキ」・・・「苺ミルクティーケーキ」 350円 🍰

4月の予定

休館日	13(火)
定休日	毎土・日・月曜日



淡いピンク色に焼き上げた苺スポンジに、香りのよいアールグレイを使った紅茶のホイップクリームを合わせてあります。天面にはボリューム感のある絞りが施され、苺を贅沢にトッピング。最後にのせられた“花型チョコオーナメント”が可愛い、春らしいケーキです。



今月のお気に入り・・・「嬉しい春を感じる絵本」

～「はるのやまはザワザワ」「おねぼうさんはだあれ?」「ねっこぼっこ」「わたしのワンピース」「ちょうちょうひらひら」など～



「はるのやまはザワザワ」の作者は、村上康成さんです。春の山に響く命の音が、様々な生き物の動きと共に聞こえてきます。小さな虫を食べていたやまめが、後のシーンで鳥にくわえられていたり、カエルを食べようとしていた蛇の上にハチミツを食べていたくまが落ちこちて、逃げるカエルの足だけが描かれていたり、それぞれにお話がつながっていて楽しいです。「おねぼうさんはだあれ?」は、2018年に亡くなった片山令子さんの遺作となった絵本で、絵はあずみ虫さんです。アルミ板をカッティングする技法だそうですが、アルミなのにとっても柔らかく感じられます。うさぎのミミナちゃんが抱きしめたくなるほど優しく、きつと片山さんの優しさそのものなのでしょう。死後3年たった今年の3月に出版されました。片山さんとあずみ虫さん、そして夫の片山健さんと息子さんの想いがつまった、春らしく温かい絵本です。

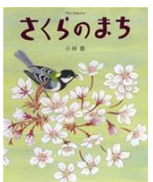


今月の本棚・・・「心惹かれる桜の絵本」

～「さくらがさくと」「さくらのまち」「さくら」「そらはさくらいろ」「うさぎがくれたバレエシューズ」「おぼけの花見」など～



「さくらがさくと」は、待ち遠しい桜の開花の様子が美しく描かれています。小さな芽からつぼみがだんだん膨らんで花開き、鳥たちとの関わりや、人間にとっての桜との関わりが、いかに毎年大切な行事になっているかがよくわかります。「さくらのまち」の作者は、アフガニスタンの戦争をもとに描かれた「せかいいち うつしい ほくの村」の小林豊さんです。昔懐かしいかけがえのない日常が、桜と共に日本画のように美しく描かれています。どんなに時が経っても、桜が咲きみだれ鳥たちが喜ぶ姿は変わることなく、また来年また来年とずっと続いてきたんだろうと思います。当たり前の日常が、震災や「せかいいち うつしい ほくの村」のバグマンのように突然奪われることなく、毎年、どこの場所でも、誰でもいつでも、桜に出会い楽しむことができることを願ってやみません。



お知らせ

絵本カフェキキ オリジナルメニュー登場!!・・・「桜のシフォンケーキ」・・・300円です。



今の季節は桜のあんが入っていますが、抹茶やチョコ、レモン、さつま芋やかぼちゃなど、シェフ(って誰?(^_^)☆)が思いつくまま具材やフレーバーを使ってケーキを作ってくれます。名付けて「気まぐれシェフのKiKi オリジナルシフォンケーキ」です。桜の次は何でしょう？そしてそれはいつ頃かな？気まぐれですので、それはお楽しみということで・・・(^_^)☆